

授業科目名：健康増進 ・医療経済政策特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西川浩昭 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1. 健康増進（ヘルスプロモーション）、医療政策について理解しその概要について説明できる。 2. 我が国の医療費をはじめとする医療経済における問題を適正に捉え、分析、評価できる。 3. 我が国の医療政策の問題について、総合的に評価できる。			
授業の概要 健康や医療に関連する問題を多面的にとらえることを目的として、問題の捉え方、問題の整理方法、問題を解決する能力を学修することを目的とする。本科目で扱う内容は変化が著しいという特徴があるが、比較的新しい内容を解説している、集中講義録を輪読し、理解を深める。			
第1回 オリエンテーション 第2回～第15回 以下の各問題についてのプレゼンテーションとディスカッション 第2回 保健・医療政策の歴史的変遷 第3回 社会保障制度改革 第4回 医療・福祉財政 第5回 医療費 第6回 医療計画 第7回 医療の質 第8回 医療・介護提供体制 第9回 医療政策とその評価 第10回 地域医療構想 第11回 少子高齢化対策 第12回 年金問題 第13回 危機管理 第14回 感染症対策 第15回 疾病予防			
定期試験は実施しない。			
テキスト とくに指定しない。			
参考書・参考資料等 1. 医療政策集中講義：医療を動かす戦略と実践，医学書院，東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット（著） 2. 社会を変える健康のサイエンス 東京大学医学部健康総合科学科 編 東京大学出版会			
学生に対する評価 授業における成果 100％（発表 50％、質疑応答 25％、まとめレポート 25％）			

授業科目名： 臨床疫学特論－EBM実践入門－	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西川浩昭 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1. 疾病の頻度を測定する方法を学習する。 2. 疾病の原因を特定する方法を理解する。 3. 治療の有効性を評価する方法を学ぶ。 4. 疾病の予後を予知する方法を学習する。			
授業の概要 EBM(Evidence Based Medicine 科学的根拠に基づく医療)とは「入手可能な範囲で最も信頼できる根拠（質の高いエビデンス）を把握したうえで、理に適った医療を行うこと、あるいはこれを行うための一連の行動指針」である。この一連の過程を遂行するためには、データベースへアクセスして目的とする文献を効率よく探し出す能力（コンピュータリテラシー）、文献を吟味できる能力（臨床疫学、生物統計学の知識）が必須となる。 これらのうち、この科目では臨床疫学を中心に学修する。臨床疫学の名著とされるFletcherのClinical Epidemiologyが和訳されたので、これを輪読する。受講者が内容をまとめて簡単なプレゼンテーションを行い、他の参加者との質疑応答、討論を行なう。			
第1回 オリエンテーション、序論 第2回 頻度 第3回 異常 第4回 リスク1－基本原理 第5回 リスク2－疾病への曝露 第6回 リスク3－疾病から曝露へ 第7回 予後 第8回 診断 第9回 治療 第10回 予防 第11回 偶然性 第12回 原因 第13回 エビデンスの要約 第14回 知識管理 第15回 効果測定、まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト Clinical Epidemiology The Essentials sixth edition, Grant S. Fletcher, Wolters Kluwer			
参考書・参考資料等 1. 臨床疫学 第3版 福井次矢 メディカル・サイエンス・インターナショナル			
学生に対する評価 授業における成果 100% （発表 50%、質問に対する回答 30%、まとめのレポート 20%）			

授業科目名： 心理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田美枝子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 対象への心理的支援が可能となるための臨床心理学の知識と技法を学ぶ。 2. グループワークを通して自己理解、他者理解を深め、心理的支援の実践力をつける。 3. 対人援助職にある者として、自分の心理的特性について理解する。			
授業の概要			
本講義は、各自が所属する領域において心理学の視点をもって実践の場で活用できるよう、心理学の基盤となる知識と臨床的視点を学ぶことを目的とする。保健医療、福祉、教育などの様々な領域における心理的支援について、子どもや家族等をめぐる問題への心理・社会的アプローチの方法を通して学ぶ。その際、事例を用いたグループワークによる体験学習を取り入れる。			
授業計画			
第Ⅰ部 臨床における心理実践活動			
第1回：臨床心理学とは何か			
第2回：臨床心理実践の構造とプロセス			
第3回：心理的アセスメント			
第Ⅱ部 臨床心理学の基本モデル			
第4回：臨床心理学の歴史			
第5回：心理実践と研究			
第6回：生物 - 心理 - 社会モデルとチームアプローチ			
第Ⅲ部 事例における心理的アプローチの方法			
第7回：人間性アプローチ（クライアント中心療法）			
第8回：精神力動的アプローチ（精神分析学）			
第9回：行動主義（行動療法）			
第10回：認知モデル（認知行動療法）			
第Ⅳ部 事例における心理社会的アプローチの方法			
第11回：システム論（家族療法）			
第12回：コミュニティアプローチ（コミュニティ心理学）			
第13回：社会構成主義（ナラティブ・アプローチ）			
第14回：社会問題化する心理的問題―児童虐待をめぐって―			
第15回：物語と心理的支援			
定期試験は実施しない。			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等			
高橋幸市他(2021)「児童虐待における公認心理師の活動」			
下山晴彦他(2020)「臨床心理学概論」ミネルヴァ書房			
滝川一廣他(2020)「子ども虐待を考えるために知っておくべきこと」日本評論社			
学生に対する評価			
講義中の小レポートおよび受講態度 50%、最終レポート 50%			

授業科目名： 教育学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：津森伸一 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育学の概要や対象とする分野を説明できる.			
2. ICT機器やネットワークを用いた教育支援・学習支援の方法を説明できる.			
3. 効果的な教育方法を独自の視点で考案することができる.			
授業の概要			
教育学は工学的なアプローチを用いて学びを支援する学問であり，教育観や学習観の変遷に合わせて発展してきました．特に近年のICT機器やネットワークの発達により，教育学の知見や成果が教育現場に急速に浸透しています．本科目では，教育学の全体像を鳥瞰し，ICT機器やネットワークを用いた教育支援・学習支援の歴史や現状を学びます．更に，学習効果を上げるための教育方法や課題について議論します．			
授業計画			
第1部 行動主義・認知主義的な教育・学習パラダイム			
・第 1回 ガイダンス・教育学とは			
・第 2回 行動主義・認知主義			
・第 3回 CAI，知的CAI			
・第 4回 CAI作成演習			
第2部 構成主義・社会構成主義的な教育・学習パラダイム			
・第 5回 構成主義・社会構成主義			
・第 6回 eラーニング			
・第 7回 アクティブラーニング			
・第 8回 アクティブラーニングの設計			
第3部 教育システムのデザイン			
・第 9回 反転授業			
・第10回 インストラクショナルデザイン			
・第11回 学力評価			
・第12回 eポートフォリオ			
・第13回 ルーブリック			
・第14回 ルーブリック作成演習			
・第15回 今後の教育・学習			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等			
1. 向後千春『上手な教え方の教科書』，技術評論社			
2. 稲垣忠・鈴木克明 編著『授業設計マニュアル（Ver. 2）』，北大路書房			
学生に対する評価			
レポート課題（60%），プレゼンテーション（30%），リアクションペーパー（10%）により評価する			

授業科目名：看護理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：市江和子、入江 拓、大石ふみ子、河口てる子 担当形態：オムニバス・複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 看護学および科学哲学の歴史的変遷を理解する。 2. 看護学における主要な理論・概念を、看護現象との関連において理解する。 3. 看護理論あるいは概念モデルを看護実践および看護研究に活用する方法について検討する。			
授業の概要			
看護学および科学哲学の歴史的変遷を振り返り、現在の看護学の理論体系について理解を深めるとともに、看護理論を実践および研究に活用する基礎を養う。			
第 1回：看護理論とは ー理論ー研究ー実践ー	市江 和子		
第 2回：看護理論・概念モデル・看護哲学	市江 和子		
第 3回：ナイチンゲールの看護理論	市江 和子		
第 4回：看護学の歴史的変遷	市江 和子		
第 5回：ケア／ケアリングの概念	入江 拓		
第 6回：看護実践に関わる主要概念	入江 拓		
第 7回：中範囲理論の概要	大石ふみ子		
第 8回：中範囲理論の活用	大石ふみ子		
第 9回：Orem「セルフケア不足看護理論」の概要	河口 てる子		
第10回：Orem「セルフケア不足看護理論」の活用	河口 てる子		
第11回：主な看護理論 1.			
Nora J. Pender, Sister Callista Roy・市江和子・大石ふみ子・入江 拓・河口 てる子			
第12回：主な看護理論 2.			
Margaret A. Newman・市江和子・大石ふみ子・入江 拓・河口 てる子			
第13回：主な看護理論 3.			
Jean Watson, Madeleine M. Leininger・市江和子・大石ふみ子・入江 拓・河口 てる子			
第14回：主な看護理論 4.			
Patricia Benner etc.市江和子・大石ふみ子・入江 拓・河口 てる子			
第15回：看護実践・看護研究における理論の活用	市江 和子		
定期試験は実施しない。			
テキスト			
とくに指定しない。			
参考書・参考資料等			
1. 筒井真優美編(2020). 看護理論家の業績と理論評価, 第2版. 医学書院. 2. 筒井真優美編(2019). 看護理論ー看護理論20の理解と実践への応用, 改訂第3版. 南江堂. 3. Marriner-Tomey, A., Alligood, M. R., 都留伸子監訳 (2004). 看護理論家とその業績, 第3版 医学書院. 4. 黒田裕子監修(2016). やさしく学ぶ看護理論, 改訂4版. 日総研出版. 5. 野川道子編(2016). 看護実践に活かす中範囲理論, 第2版. メヂカルフレンド社			
学生に対する評価			
プレゼンテーション (50%)、課題レポート (50%) を総合して行う。			

授業科目名：看護研究 方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：檜原理恵、市江 和子、西川浩昭、佐久間佐織 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1. 看護研究における文献検索の意義を理解し、具体的方法を学修する。 2. さまざまな疑問から研究課題を明確化していくプロセスについて学修する。 3. 量的研究についての一連のプロセス（概念枠組みの構築、研究デザイン・研究方法の選定、データの収集・分析）を理解する。 4. 量的なデータの収集方法および測定用具の選択について学修する。 5. 質的研究方法のプロセスを概観し、事例研究、質的記述的研究、その他さまざまな質的研究方法の理論的基盤と方法の概略について学ぶ。 6. 質的研究方法の実践について学修する。			
授業の概要 看護学における研究の重要性および量的研究方法・質的研究方法の概要について理解し、看護の質の向上をめざして研究活動を行うための基本的な知識を修得する。			
第1回 看護における研究の重要性	檜原 理恵		
第2回 文献検索の意義と方法	檜原 理恵		
第3回 文献の読み方・文献レビュー	檜原 理恵		
第4回 文献クリティーク	檜原 理恵		
第5回 看護研究と倫理	佐久間 佐織		
第6回 研究課題と概念枠組み	佐久間 佐織		
第7回 研究計画書の作成	佐久間 佐織		
第8回 量的研究デザイン	西川 浩昭		
第9回 量的データの収集・測定用具の選択	西川 浩昭		
第10回 量的データの分析	西川 浩昭		
第11回 量的研究論文を読む	西川 浩昭		
第12回 質的研究の種類とその方法の概略	市江 和子		
第13回 質的研究論文を読む	市江 和子		
第14回 質的研究の実践 インタビュー	市江 和子		
第15回 質的研究の実践 分析	市江 和子		
定期試験は実施しない。			
テキスト Burns, N. & Grove, S. K., 黒田裕子他訳(2015). バーンズ&グローブ看護研究入門 原著第7版 評価・統合・エビデンスの生成. エルゼビア・ジャパン.			
参考書・参考資料等 1. Polit, D. F. & Beck, C. T., 近藤潤子監訳(2010). 看護研究－原理と方法, 第2版. 医学書院. 2. 南 裕子, 野嶋佐由美編(2017). 看護における研究, 第2版. 日本看護協会出版会. 3. グレグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編著(2016). よくわかる質的研究の進め方・まとめ方, 第2版. 医歯薬出版. 4. 坂下玲子他(2016). 系統看護学講座 別巻 看護研究. 医学書院. 5. Judith Garrard 安部陽子訳(2015) 看護研究のための文献レビュー マトリックス方式, 医学			
学生に対する評価 プレゼンテーションおよび討議への参加度（50％）、課題レポート（50％）を総合して行う。			

授業科目名： 学校看護特論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池永理恵子、長峰伸治、太田知実、江口晶子、津島ひろ江 担当形態：オムニバス
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1. 養護実践における看護学の教育的意義や社会的意義について理解することができる。 2. 子どもの成長・発達過程における健康課題を心理・教育・保健の観点から多角的に探究することができる 3. 養護実践の場における看護の視点に立った支援の方法論や技法を理解し説明できる。				
授業の概要 養護実践で活用される看護の諸理論と概念を基盤として、子どもの成長・発達過程における健康支援について多角的に探究する。				
授業計画 第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。池永理恵子 第2回：養護実践と看護職の歴史的経緯の理解Ⅰ（養護教諭の歴史と背景）池永理恵子 第3回：養護実践と看護職の歴史的経緯の理解Ⅱ（保健・医療との関連）池永理恵子 第4回：養護教諭に期待される社会的役割と課題池永理恵子 第5回：養護活動における心理学的アプローチに関する研究Ⅰ（幼児から学童）長峰伸治 第6回：養護活動における心理学的アプローチに関する研究Ⅱ（思春期）長峰伸治 第7回：教育制度という観点から見た養護教諭の位置と役割Ⅰ（学校と地域）太田知実 第8回：教育制度という観点から見た養護教諭の位置と役割Ⅱ（学校組織論）太田知実 第9回：養護活動と地域看護との連携の現状と課題江口晶子 第10回：養護活動と地域看護との連携と支援の実際江口晶子 第11回：医療的ケア児の教育保障の歴史的背景津島ひろ江 第12回：医療的ケア児の現状と課題津島ひろ江 第13回：医療的ケア児の地域包括支援体制と多職種の連携・協働津島ひろ江 第14回：課題の発表池永理恵子 第15回：まとめと評価池永理恵子 定期試験は実施しない。				
テキスト 津島ひろ江他，医療的ケア児の健康管理における養護教諭の役割，誠信書房，2023 ISBN-13 978-4414202243				
参考書・参考資料等 上記以外については担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。学生は研究テーマに関連した文献や資料を各自で探索する。				
学生に対する評価 講義での討論への参加状況（30％）、プレゼンテーション（30％）、課題レポート（30％）を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。				

授業科目名： 学校看護援助特論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：池永理恵子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 1. 特別な支援を要する子どもの現状から教育課題や社会背景について探究することができる。 2. 特別な支援を要する子どもの学校と地域との連携や支援の在り方を理解し説明できる。			
授業の概要 学校および地域社会の中における特別な支援を必要とする子どもへの支援について理解し、探究する。子どもの人権尊重と健やかな成長発達を保障するセーフティネットとしての学校の役割や地域の社会資源との連携の実際と具体的な支援の在り方を理解し、養護教諭の社会的役割について考察する。			
授業計画必修科目 第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。 第2回：特別な支援を要する子どもへの支援の現状と課題 第3回：特別な支援を要する子どもの社会的背景と法的整備 第4回：特別な支援を要する子どもと養護教諭に期待される役割 第5回：海外における特別な支援を要する子どもの支援の実際 第6回：特別な支援を要する子どもの支援と看護職の役割 第7回：特別な支援を要する子どもの支援と看護職と教員の連携 第8回：特別な支援を要する子どもの支援に関する文献検討Ⅰ（国内） 第9回：特別な支援を要する子どもの支援に関する文献検討Ⅱ（海外） 第10回：地域における特別な支援を要する子どもへの支援の実際 第11回：特別な支援を要する子どもと家庭における社会資源の活用 第12回：特別な支援を要する子どもと保護者との連携 第13回：特別な支援を要する子どもの自立と教員の役割 第14回：課題の発表 第15回：まとめと評価 定期試験は実施しない。			
テキスト 講義の際に随時提示する。			
参考書・参考資料等 担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。学生は研究テーマに関連した文献や資料を各自で探索する。			
学生に対する評価 講義での討論への参加状況（30％）、プレゼンテーション（30％）、課題レポート（30％）を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。			

授業科目名： 学校看護援助特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：池永理恵子、 西川浩昭、水田明子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 地域看護学における研究目的と意義が説明できる。			
2. 地域看護学における研究方法の種類と概要を説明できる。			
3. 地域看護学における研究のプロセスについて演習を通して理解できる。			
4. 実践と研究を結び付けて考えることができる。			
授業の概要			
地域看護学における研究方法の種類と概要（量的研究、質的研究、混合研究法）、研究のプロセス（データ取得から分析まで）を講義と演習を通して学び、看護実践と研究を結びつけて探究する。			
授業計画必修科目			
第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。			池永理恵子
第2回：データの種類と取得方法、分析の考え方と分析手法			西川 浩昭
第3回：SPSSによる統計解析演習①記述統計（代表値とばらつき）			西川 浩昭
第4回：SPSSによる統計解析演習②記述統計（相関係数、一次回帰、オッズ比）			西川 浩昭
第5回：SPSSによる統計解析演習③統計学的推論（推定と検定）			西川 浩昭
第6回：SPSSによる統計解析演習④統計学的推論（平均の差、割合の差）			西川 浩昭
第7回：SPSSによる統計解析演習結果のプレゼンテーションとまとめ			西川 浩昭
第8回：地域における公衆衛生看護実践の分析等①			水田 明子
第9回：地域における公衆衛生看護実践の分析等②			水田 明子
第10回：質的研究におけるデータの取得方法、分析の考え方と方法			池永理恵子
第11回：質的帰納的分析演習① 質的研究分析の ステップ①（例：コード化）			池永理恵子
第12回：質的帰納的分析演習②質的研究分析の ステップ②（例：サブカテゴリ化）			池永理恵子
第13回：質的帰納的分析演習③質的研究分析の ステップ③（例：カテゴリ化）			池永理恵子
第14回：質的帰納的分析演習④質的研究分析の ステップ④（例：テーマの抽出）			池永理恵子
第15回：学校を含む地域看護学における 研究方法と概要についてのまとめ			池永理恵子
定期試験は実施しない。			

テキスト：南裕子、野崎佐由美編（2017）．看護における研究，第2版，日本看護協会出版会
ISBN：978-4-8180-2066-5

参考書・参考資料等

- ・柳井晴夫、緒方裕光編著（2020）．改訂新版SPSSによる統計データ解析．現代数学社
ISBN-13 978-4768705285
- ・高木博文（2011）．質的研究を科学する．医学書院
ISBN：978-4-260-01208-9

上記以外は担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。学生は研究テーマに関連した文献や資料を各自で探索する。

学生に対する評価

演習への取り組み（40％）、課題レポート（60％）を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。

授業科目名： 学校看護特論演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池永理恵子、西川浩昭、岡本啓子、中島敦子、古川恵美 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 地域看護学領域および学校看護の領域における研究課題が概観できる。			
2. 研究活動に必要な情報を収集することができる。			
3. 地域および学校における実践事例の健康課題や活動を分析し、構造化することができる。			
4. 研究課題に対するこれまでの研究の動向を把握することができる。			
授業の概要			
地域看護学領域および学校看護の領域における子どもの健康課題の解決を図る方策や看護実践への研究成果活用について研究を進めるための汎用スキルとして論文クリティークの基礎知識と技術を学び、討論やフィードバックを通して探究し、関連する論文のクリティークを行い研究に対する洞察力を深める。			
第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。		池永理恵子	
第2回：学校看護の領域における研究課題の概観		池永理恵子	
第3回：論文クリティークとは		西川 浩昭	
第4回：地域看護学領域における論文クリティークの基礎知識① (研究テーマと枠組、研究方法のクリティーク)		西川 浩昭	
第5回：地域看護学領域における論文クリティークの基礎知識②（量的研究）		西川 浩昭	
第6回：地域看護学領域における論文クリティークの基礎知識③（質的研究）		池永理恵子	
第7回：地域看護学領域における論文クリティークの基礎知識④ (研究結果と考察のクリティーク)		池永理恵子	
第8回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス①		岡本啓子	
第9回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表（事例を通して）		岡本啓子	
第10回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス②		中島敦子	
第11回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表（事例を通して）		中島敦子	
第12回：学校看護の領域における研究課題と研究のプロセス③		古川恵美	
第13回：学校看護の領域における論文執筆と研究発表（事例を通して）		古川恵美	
第14回：フィールドワーク（職場または学外活動において研究課題を見出す）①		池永理恵子	
第15回：フィールドワーク（職場または学外活動において研究課題を見出す）②		池永理恵子	
第16回：フィールドワーク（職場または学外活動において研究課題を見出す）③		池永理恵子	

第17回：フィールドワーク（職場または学外活動において研究課題を見出す）④	池永理恵子
第18回：フィールドワークの成果発表とディスカッション①	池永理恵子
第19回：フィールドワークの成果発表とディスカッション②	池永理恵子
第20回：学校看護の領域における倫理的課題について	池永理恵子
第21回：研究疑問から研究課題、研究の焦点化	池永理恵子
第22回：研究疑問から研究課題、研究テーマの設定	池永理恵子
第23回：学修成果の振り返りと課題発表	池永理恵子
テキスト 牧本清子・山川みやえ 編著（2020）．よくわかる看護研究論文のクリテイク．日本看護協会出版会 ISBN：978-4-8180-2271-3	
参考書・参考資料等 上記以外は担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。学生は研究テーマに関連した文献や資料を各自で探索する。	
学生に対する評価 フィールドワークへの参加状況（20％）、ディスカッションへの参加状況（20％）、各段階でのプレゼンテーション内容（40％）、レポート（20％）を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。	

授業科目名： 学校看護特論演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池永理恵子、宮谷恵、入江拓、 藤浪千種、山村江美子、中島 敦子
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 疾患を持つ子どもの看護ケアにおける看護師の役割を理解できる。 2. 入院から退院に移行する過程における多職種連携と看護支援について理解できる。 3. 地域でケアを受ける子どもと家族の看護支援と連携システムについて理解できる。 4. 学校における子どもの事故発生時に求められる養護教諭の看護実践力と連携力を獲得している。			
授業の概要			
心身に疾患をもつ子どもの成長発達段階における看護ケアニーズと看護保健管理上の課題に対処するための方策や技術を理解する。また、他職種・関係部門との協働・連携や地域の社会資源の活用および連携システムの構築を学び、養護実践のリーダーに必要とされる看護実践力を修得する。			
第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要について説明する。		池永理恵子	
第2回：学校看護の領域における子どもの看護ケアニーズ		池永理恵子	
第3回：医療的ケア児の現状および看護師の役割と課題		宮谷 恵	
第4回：小児慢性疾患の看護ケアと学校との連携		宮谷 恵	
第5回：子どもの事故発生状況の現状と看護師の役割		藤浪 千種	
第6回：子どもの事故発生時に必要な看護ケアと学校との連携		藤浪 千種	
第7回：思春期の精神疾患の現状と看護師の役割		入江 拓	
第8回：思春期の精神疾患に対する看護ケアと学校との連携		入江 拓	
第9回：在宅で看護ケアを受ける子どもの現状と看護師の役割		山村江美子	
第10回：在宅で看護ケアを受ける子どもや家族への支援と教育の役割		山村江美子	
第11回：学校における事故発生の現状と課題		中島 敦子	
第12回：事故発生時に求められる養護教諭の看護実践能力と連携力		中島 敦子	
第13回：養護教諭に求められる個人情報における倫理的配慮		池永理恵子	
第14回：学修成果と振り返りと課題発表		池永理恵子	
第15回：まとめ		池永理恵子	
テキスト			
担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する			
参考書・参考資料等			
担当教員が必要に応じて文献や資料を紹介し、講義で随時提示する。学生は研究テーマに関連した文献や資料を各自で探索する。			
学生に対する評価			
授業中の質疑・討議への参加状況（30％）、プレゼンテーション内容（30％）、レポート（40％）を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：池永理恵子
学校看護特論実習	必修科目	4単位	担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める	養護に関する科目		
科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 特論実習Ⅰでは、研究テーマと関連させて実習先の保健・医療施設や学校機関等を事例に養護活動や学校看護の取り組みを理解する。			
2. 特論実習Ⅱでは、研究テーマと関連させて実習先の医療施設や学校機関・施設等において養護教諭が関わる課題を抽出し、連携システム構築のための提言の方向性を考えることができる。			
授業の概要			
地域看護学および学校看護の領域においての各科目等、今まで学修した内容を統合して地域や学校の健康課題解決のための看護実践能力の向上を目指す。さらに、子どもの健康水準および健康リテラシーを高め、健やかな成長発達を支援するための社会資源の活用と連携システムについて探求する。実習は特論実習Ⅰと特論実習Ⅱで構成し、特論実習Ⅰは見学、補助を主とし、特論実習Ⅱでは指導者の指導のもと、介入的な関わりのある内容の実習とする。履修期間は通年とする。			
授業計画			
＜実習Ⅰおよび実習Ⅱ＞			
第1回：ガイダンス 本講義の目的と概要を説明をする。		池永理恵子	
第2回：研究疑問（リサーチクエスチョン）、研究テーマ発表		池永理恵子	
第3回：研究テーマとの関連で最新の研究動向を把握する		池永理恵子	
第4回：実習Ⅰの実習先とオリエンテーション、実習目標発表		池永理恵子	
第5回～第25回：研究テーマと関連させた医療機関または学校機関・施設の実習		池永理恵子	
第26回～第27回：実習Ⅰ記録のまとめと振り返り		池永理恵子	
第28回～第30回：実習Ⅰ成果の発表、助言を受け、研究テーマに沿った考察を行う。		池永理恵子	
第31回～第34回：実習Ⅱの実習先の開拓や依頼等実習の事前準備を行う。		池永理恵子	
第35回～第55回：研究テーマと関連させた医療機関または学校機関・施設の実習		池永理恵子	
第56回～第57回：実習記録のまとめと振り返り		池永理恵子	
第58回～第60回：実習Ⅱ成果の発表、助言を受け、研究テーマ、研究方法の明確化を図る。		池永理恵子	
＊研究テーマにより、実習先等は検討することがある。			
テキスト オリエンテーション時に提示する。			
参考書・参考資料等			
実習中に随時提示する。学生は研究テーマや実習に関連した文献や資料を各自で探索する。			
学生に対する評価			
実習計画書（20％）実習に対する取り組み姿勢・態度（40％）、実習成果レポート（30％）、実習報告（10％）を基準として積極的な質疑等受講態度を含め、総合的に評価する。			

授業科目名： 基礎看護学特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐久間佐織、檜原理恵
				担当形態：オムニバス
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 看護理論と看護実践がどのような関係にあるのか、看護実践から育っている理論とは何か など看護理論と看護実践について追究する。				
2. 看護介入が患者・クライアントに及ぼす影響について、科学的に検証する方策を追究する。				
3. 医療の高度化・専門化の進展、看護活動の場の拡大に伴い、安全で質の高い看護が求めら れている現状を見極め、状況の変化の中でも変わらない看護の専門性と 何か、また時 代の変化に対応して変化する看護の専門性とは何かを追究する。				
授業の概要				
看護の基礎概念、看護実践を支える人間関係、および科学的根拠に基づいた看護介入のあり方、看 護に関する社会的動向について体系的に探究する。				
授業計画				
<授業内容・テーマ等>			<担当教員名>	
第1回	看護における看護技術の位置づけ ・The Art of Nursingと看護技術 ・看護実践の構造における看護技術の位置づけ		佐久間 佐織	
第2回	看護技術の特性 ・看護技術の定義および目的 ・看護技術の歴史的変遷と課題 ・看護技術の特性：目的性、個別性、身体性、順序性		佐久間 佐織	
第3回	看護技術とEvidence Based Nursing ・Evidence Based Nursingの歴史的背景と必要性 ・看護技術の理論知と実践知		佐久間 佐織	
第4回	看護実践のプロセス ・クリティカルシンキングと看護判断		檜原理恵	
第5回	看護実践のプロセス ・コミュニケーション		檜原理恵	
第6回	看護実践に関連する理論（中範囲理論） ①人間の成長発達に関する理論		佐久間佐織	
第7回	看護実践に関連する理論（中範囲理論） ②看護のアセスメントと援助に関する理論		佐久間佐織	
第8回	文献抄読（1）		佐久間佐織	
第9回	文献抄読（1） ※①②で学習した理論について、関連書籍、論文を読み、 プレゼンテーション、意見交換する		佐久間佐織	
第10回	看護実践に関連する理論（中範囲理論） ③危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論 ④病気・障害のプロセスに関する理論		佐久間佐織	
第11回	文献抄読（2）		佐久間佐織	
第12回	文献抄読（2） ※③④で学習した理論について、関連書籍、論文を読み、 プレゼンテーション、意見交換する		佐久間佐織	
第13回	看護実践に関連する理論（中範囲理論）		佐久間佐織	

⑤行動変容、行動強化に関する理論 ⑥認識の変容に焦点を当てた理論 ⑦その他の理論		
第14回	文献抄読 (3)	佐久間佐織
第15回	文献抄読 (3)	佐久間佐織
※⑤⑥⑦で学習した理論について、関連書籍、論文を読み、 プレゼンテーション、意見交換する 定期試験は実施しない。		
テキスト 特に指定しない		
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介する。		
学生に対する評価 討議 40%、プレゼンテーション 40%、レポート 20%		

授業科目名： 看護管理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樫原理恵 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 組織行動学を理解し、組織内での人々の行動や態度など、理論を用いてケース分析を行うことで、自己の課題を明確にすることができる。 2. 専攻する看護管理分野および関連諸科学における理論・概念に精通し、看護管理分野の学問を深める。			
授業の概要			
看護管理論で得た知識を基に、看護管理学の理論基盤である組織行動論について学修し、組織内で人々が示す行動や態度に関する研究および実践への理論の適用を探究する。			
授業計画			
第 1回：科目ガイダンス 組織行動論への招待・モチベーション 講義 第 2回： 組織コミットメント 事例分析・討議 第 3回：意思決定と合意形成 事例分析・討議 第 4回：キャリアマネジメント 事例分析・討議 第 5回：組織市民行動 事例分析・討議 第 6回：組織ストレス 事例分析・討議 第 7回：チームマネジメント 事例分析・討議 第 8回：リーダーシップ 事例分析・討議 第 9回：組織学習 事例分析・討議 第10回：組織変革 事例分析・討議 第11回：組織文化 事例分析・討議 第12回：組織的公正 事例分析・討議 第13回：組織社会化 事例分析・討議 第14回：ダイバーシティマネジメント 事例分析・討議 第15回：プロフェッショナルマネジメント まとめ 事例分析・討議 定期試験は実施しない。			
テキスト 【ベーシック＋】組織行動論 開本浩矢編著 中央経済社			
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介する。			
学生に対する評価			
授業への積極的な取り組み姿勢 50%、プレゼンテーションの内容と態度 20%、最終レポート 30%			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：市江和子
小児看護学特論Ⅰ	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 子どもの成長・発達を概観し、主要な理論を理解する。			
2. 発達段階や状況に応じた看護を理解する。			
3. 必要な発達評価を理解する。			
4. 既存の研究などを通して、子どもへの援助について幅広く学修する。			
授業の概要			
子どもと親・家族をとりまく社会状況をふまえ、対象となる子どもの成長・発達を理解するための主要な理論から、小児各期の発達や状況に応じた看護について考察する。さらに、研究動向から最近の知見を得るとともに、これらの理論を看護に適応する可能性、課題について探求する。			
授業計画			
第1回	子どもの発達と発達に影響を及ぼす社会・文化的動向		
第2回	胎生期/新生児期と看護		
第3回	乳児期と看護		
第4回	幼児期/学童期と看護		
第5回	思春期/青年期と看護		
第6回	キャリアオーバーと生育看護		
第7回	人間発達理論の研究史		
第8回	発達理論(1) 認知発達理論(ピアジェ)		
第9回	発達理論(2) 愛着理論(ボールビー)		
第10回	発達理論(3) マーラーの乳幼児の発達理論		
第11回	発達理論(4) 心理社会的発達理論(エリクソン)		
第12回	発達理論の総括		
第13回	子どもの発達についての研究動向		
第14回	小児看護学における発達理論の展開と研究課題		
第15回	まとめと討議		
定期試験は実施しない。			
テキスト 指定図書はありません。			
参考書・参考資料等			
適宜授業内で紹介する。			
学生に対する評価			
授業の取り組み 50%、課題レポートまたは発表 50%により総合的に判断する。			

授業科目名： 小児看護学特論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：市江和子、宮谷 恵
			担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 子どもと親・家族の関係を学ぶための主要な理論を理解する。 2. 子どもと親子関係・家族と家族発達に関する諸理論を理解し、活用方法を検討する。 3. 子どものストレス、痛み、遊びの支援を理解する。 4. 子どもの自己概念の評価とケアを理解する。 5. 死を迎える子どもへの看護を学び、親・家族への支援を理解する。 6. 既存の理論・研究などを通して、子どもと親・家族への援助について考察する。			
授業の概要			
子どもと親・家族をとりまく社会状況をふまえ、対象となる子どもの成長・発達を理解するための 主要な理論から、小児各期の発達や状況に応じた看護について考察する。さらに、研究動向から最 近の知見を得るとともに、これらの理論を看護に適応する可能性、課題について探求する。			
授業計画			
第1回	子どもと親子関係・家族をめぐる理論	宮谷恵	
第2回	家族発達理論(1)：各発達段階における家族の特徴	宮谷恵	
第3回	家族発達理論(2)：家族発達理論の視点を活用した家族発達のアセスメント	宮谷恵	
第4回	ストレスコーピングモデル	宮谷恵	
第5回	子どもと親・家族のコーピング	宮谷恵	
第6回	ソーシャルサポートとその評価	宮谷恵	
第7回	家族介入モデルと家族看護の展開	宮谷恵	
第8回	小児看護領域におけるソーシャルサポート	市江和子	
第9回	子どものセルフケア：セルフケア理論	市江和子	
第10回	子どものストレスとケア	市江和子	
第11回	子どもの痛みとケア	市江和子	
第12回	子どもにとっての遊び	市江和子	
第13回	子どもの自己概念と評価	市江和子	
第14回	子どもの死・悲嘆と親・家族への看護とグリーフケア	市江和子	
第15回	子どもと親・家族をめぐる理論の応用と課題	市江和子	
定期試験は実施しない。			
テキスト 指定図書はありません。			
参考書・参考資料等 適宜授業内で紹介する。			
学生に対する評価			
授業の取り組み 50%、課題レポートまたは発表 50%により総合的に判断する。			